

# グリーンな栽培マニュアル(施設キュウリ)Ver. 1

～施設キュウリにおける化学農薬の使用量低減によりグリーンな栽培体系の転換を目指して～

海部次世代園芸産地創生推進協議会(令和5年3月作成)

	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
作業工程	後片付け 土作り		定植準備開始	定植	親づる摘心 収穫開始							栽培終了
主な病害虫の発生						褐斑病・ウドンコ病・べと病			天敵(スワルスキーカブリダニ)放飼	ミナミキイロアザミウマ・コナジラミ類 灰色カビ病・菌核病		

## 主な病害虫と化学農薬使用量を減らす取組み



ミナミキイロアザミウマと天敵



ネコブセンチュウの被害と夏期の太陽熱消毒



褐斑病による被害

ウドンコ病による被害



複合耐病性品種で被害軽減

## 複合耐病性品種による化学農薬使用量(褐斑病・ウドンコ病)の削減

～令和4年度実証ほの結果より～

- ・Gフラッシュ, 緑華(ときわ研究所)
  - ・ニーナZ, 679(埼玉原種育成会)
  - ・優聖(久留米種苗)
- 【比較:従来品種Z】

例)11月(定植)～2月末の対象病害(ウドンコ病, 褐斑病)の防除回数

- ・従来品種 : 10回
- ・複合耐病性品種: 平均7回

防除回数のみでは判断できないが, 複合耐病性品種では期間中の対象病害の発生がほぼ確認されず(従来品種では, 12月下旬以降散見された), 省力化や化学農薬の使用量低減に繋がった。

※注意点: 褐斑病・ウドンコ病に対する薬剤散布回数を極端に減らすと, つる枯れ病の発生が増えるため注意が必要。

※病害は高湿度条件, 肥料・水管理過不足等により発生しやすくなるので, 適正管理を心がけましょう。